

# 2012年3月期 決算説明会

2012年5月18日

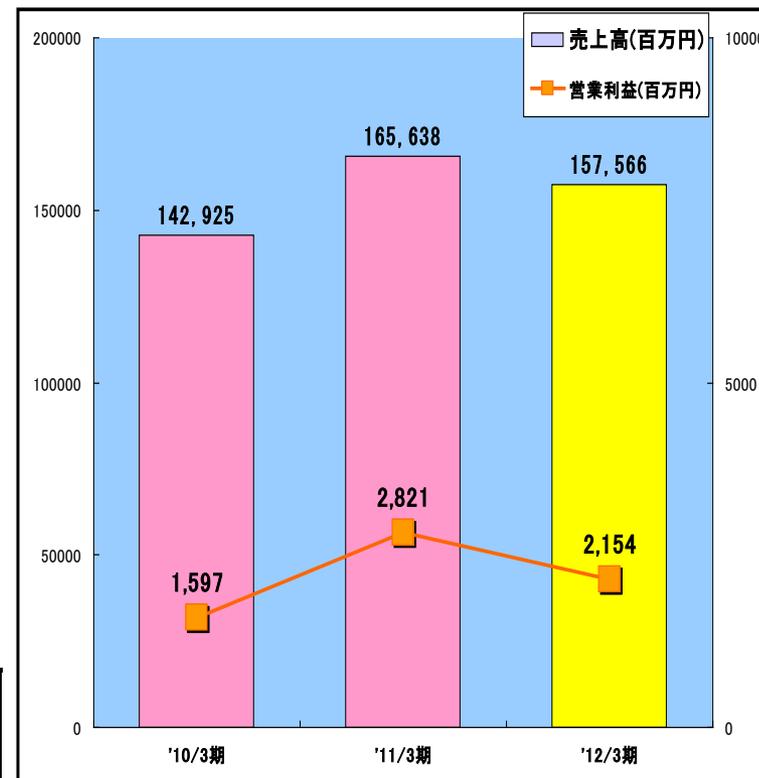
 **古河機械金属株式会社**

\* 本資料の予想につきましては、説明会開催日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

## 〔業績〕

(単位:百万円)

	10年3月期	11年3月期	12年3月期	対11/3期 増減
売上高	142,925	165,638	157,566	△8,072
営業利益	1,597	2,821	2,154	△666
経常利益	111	1,231	1,268	37
当期純利益	585	563	△1,659	△2,223



## 〔財務状況〕

		11年3月期	12年3月期	対11/3期 増減
総資産	百万円	196,234	193,971	△2,262
純資産	百万円	47,622	47,668	46
自己資本比率	%	23.4	23.7	0.3
1株当たり純資産	円	113.45	113.88	0.43

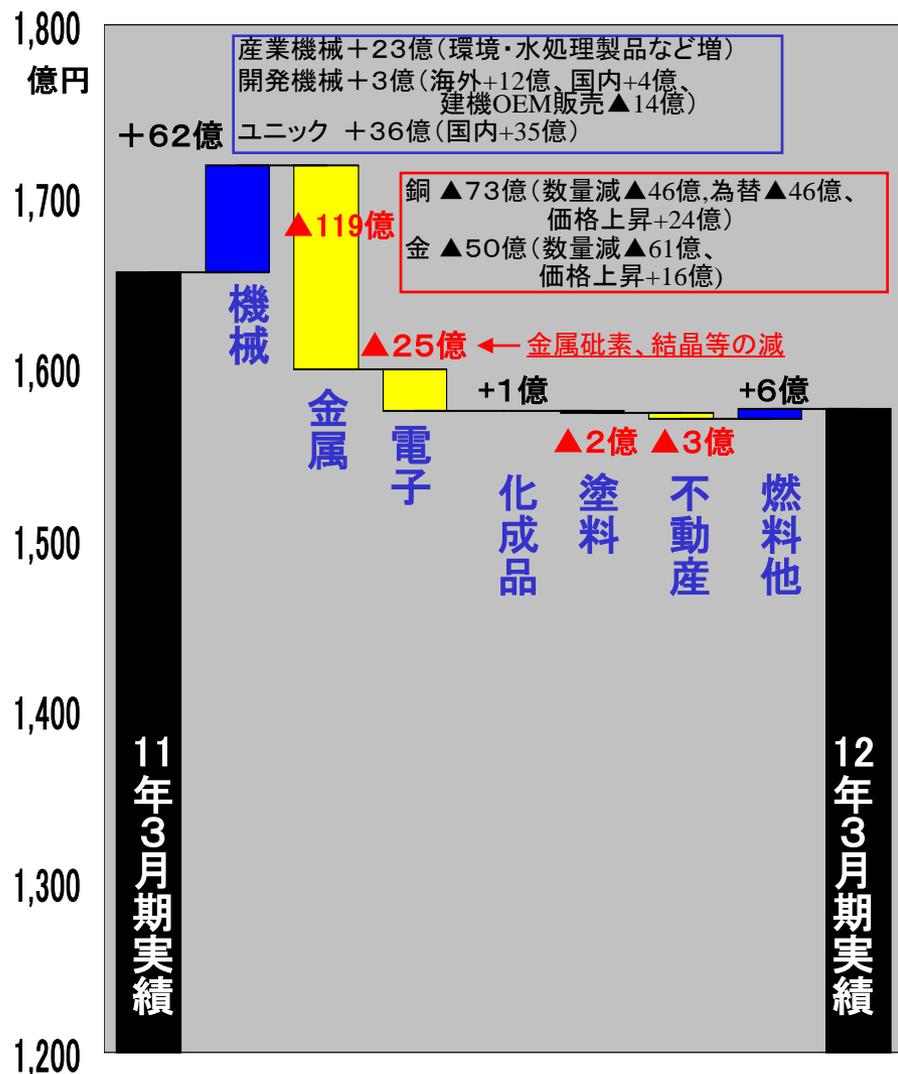
	12年3月期	対前年同期増減
銅価 \$/mt	8,485	346
為替 円/\$	79.1	△ 6.6

〔売上高〕	(単位:百万円)		
	11年3月期	12年3月期	対11/3期増減
機械部門	47,025	53,198	6,172
(産業機械)	(10,655)	(12,949)	(2,294)
(開発機械)	(23,880)	(24,143)	(263)
(ユニック)	(12,490)	(16,105)	(3,615)
金属部門	79,979	68,114	△11,865
電子化成品部門	12,223	9,803	△2,420
(電子)	(7,147)	(4,615)	(△2,531)
(化成品)	(5,076)	(5,187)	(110)
塗料部門(※)	15,040	14,874	△166
不動産部門	1,577	1,233	△344
燃料	9,004	9,576	571
その他	785	766	△19
合計	165,638	157,566	△8,072

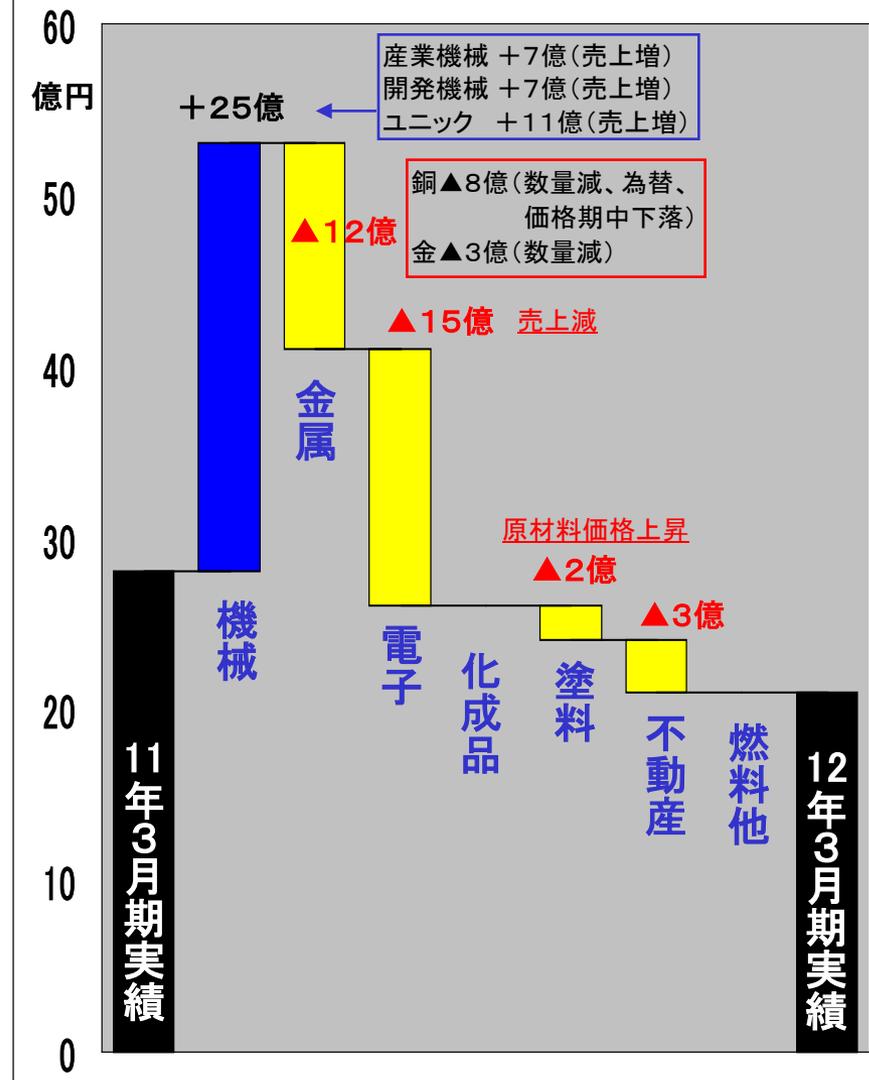
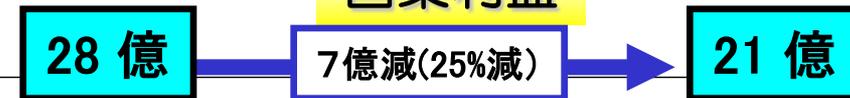
〔営業利益〕	(単位:百万円)		
	11年3月期	12年3月期	対11/3期増減
機械部門	△566	1,970	2,536
(産業機械)	(△29)	(708)	(737)
(開発機械)	(△350)	(333)	(683)
(ユニック)	(△186)	(928)	(1,115)
金属部門	1,494	308	△1,186
電子化成品部門	1,549	16	△1,532
(電子)	(1,279)	(△234)	(△1,514)
(化成品)	(269)	(251)	(△18)
塗料部門(※)	△93	△329	△236
不動産部門	635	356	△278
燃料	△56	△13	42
その他	△92	△93	△1
調整額	△49	△60	△10
合計	2,821	2,154	△666

※09/12に㈱トウペ(塗料事業)を連結子会社化

## 売上高



## 営業利益



(単位:百万円)

	11/3月期	12/3月期	対11/3期増減
<b>売上高</b>	<b>165,638</b>	<b>157,566</b>	<b>△8,072</b>
売上原価	146,364	138,097	△8,266
売上総利益	19,274	19,469	194
販売費及び一般管理費	16,453	17,314	860
<b>営業利益</b>	<b>2,821</b>	<b>2,154</b>	<b>△666</b>
営業外収益	1,296	1,572	275
受取配当金	593	793	200
為替差益	-	159	159
その他	703	618	△84
営業外費用	2,886	2,458	△428
支払利息	1,526	1,403	△123
休鉱山管理費	566	581	14
その他	793	473	△319
<b>経常利益</b>	<b>1,231</b>	<b>1,268</b>	<b>37</b>
特別利益	273	739	466
受取補償金	-	632	632
持分変動利益	-	79	79
事業譲渡益	135	-	△135
その他	138	27	△110
特別損失	1,057	4,669	3,612
投資有価証券評価損	180	3,266	3,086
投資有価証券売却損	6	1,027	1,020
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	109	-	△109
その他	760	375	△384
税金等調整前当期純利益	447	△2,662	△3,109
法人税、住民税及び事業税	482	508	26
法人税等調整額	△368	△1,377	△1,009
少数株主利益(△損失)	△229	△133	96
<b>当期純利益</b>	<b>563</b>	<b>△1,659</b>	<b>△2,223</b>

当社保有上場会社株式の  
株価下落に伴う減損処理による

# 連結貸借対照表

(単位:百万円)

区分	11年3月期	12年3月期	対11/3期増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	80,199	81,498	1,298
固定資産	116,035	112,473	△3,561
有形固定資産	85,657	85,085	△571
無形固定資産	836	647	△189
投資その他の資産	29,540	26,740	△2,800
<b>資産合計</b>	<b>196,234</b>	<b>193,971</b>	<b>△2,262</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	70,456	74,807	4,351
固定負債	78,156	71,495	△6,660
<b>負債合計</b>	<b>148,612</b>	<b>146,303</b>	<b>△2,309</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	45,472	43,866	△1,605
資本金	28,208	28,208	-
利益剰余金	17,309	15,705	△1,604
自己株式	△45	△46	△0
その他の包括利益累計額	376	2,155	1,778
新株予約権	53	53	-
少数株主持分	1,720	1,593	△126
<b>純資産合計</b>	<b>47,622</b>	<b>47,668</b>	<b>46</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>196,234</b>	<b>193,971</b>	<b>△2,262</b>

上場株式の株価下落等による投資有価証券の減少等

借入金の減少等

■有利子負債 (単位:百万円)

	11年3月期	12年3月期	対11/3期増減
短期	12,858	12,896	38
長期	76,406	72,899	△3,507
<b>有利子負債合計</b>	<b>89,264</b>	<b>85,795</b>	<b>△3,469</b>

# 13年3月期業績予想(連結)

(単位:百万円)

	12年3月期	13年3月期 予想	対12/3期 増減
売上高	157,566	170,000	12,433
営業利益	2,154	3,000	845
経常利益	1,268	1,500	231
当期純利益	△1,659	1,000	2,659

## 〔前提条件〕

	12年3月期 実績	13年3月期 予想
銅 価	8,485 \$/ト	8,000 \$/ト
為 替	79.1円/\$	77.0円/\$

〔売上高〕 (単位:百万円)

	12年3月期	13年3月期(予想)	対12/3期増減
機械部門	53,198	58,600	5,401
（産業機械）	(12,949)	(14,100)	(1,150)
（開発機械）	(24,143)	(26,800)	(2,656)
（ユニック）	(16,105)	(17,700)	(1,594)
金属部門	68,114	72,000	3,885
電子化成品部門	9,803	11,600	1,796
（電子）	(4,615)	(6,200)	(1,584)
（化成品）	(5,187)	(5,400)	(212)
塗料部門(※)	14,874	15,500	625
不動産部門	1,233	1,000	△233
燃料部門	9,576	10,300	723
その他	766	1,000	233
合計	157,566	170,000	12,433

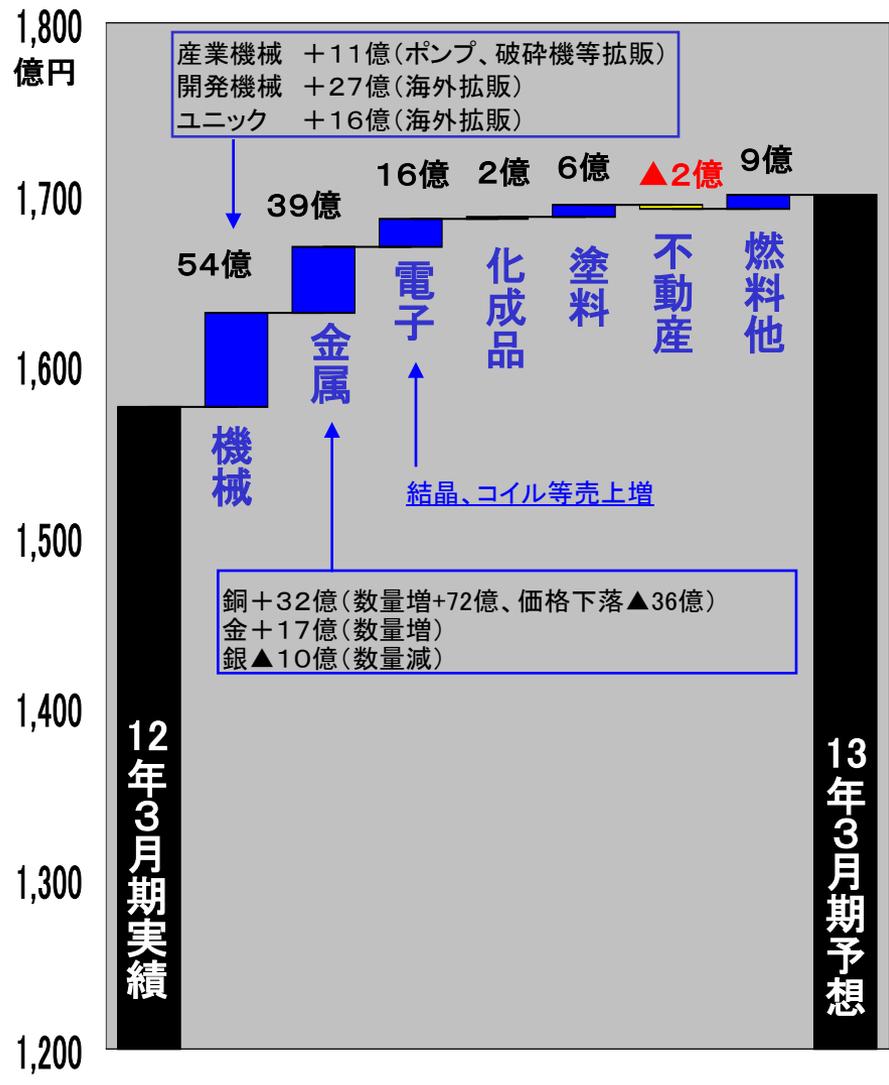
〔営業利益〕 (単位:百万円)

	12年3月期	13年3月期(予想)	対12/3期増減
機械部門	1,970	2,550	579
（産業機械）	(708)	(850)	(141)
（開発機械）	(333)	(500)	(166)
（ユニック）	(928)	(1,200)	(271)
金属部門	308	△150	△458
電子化成品部門	16	500	483
（電子）	(△234)	(150)	(384)
（化成品）	(251)	(350)	(98)
塗料部門(※)	(△329)	10	339
不動産部門	356	170	△186
燃料部門	△13	20	33
その他	△93	△75	18
調整額	△60	△25	35
合計	2,154	3,000	845

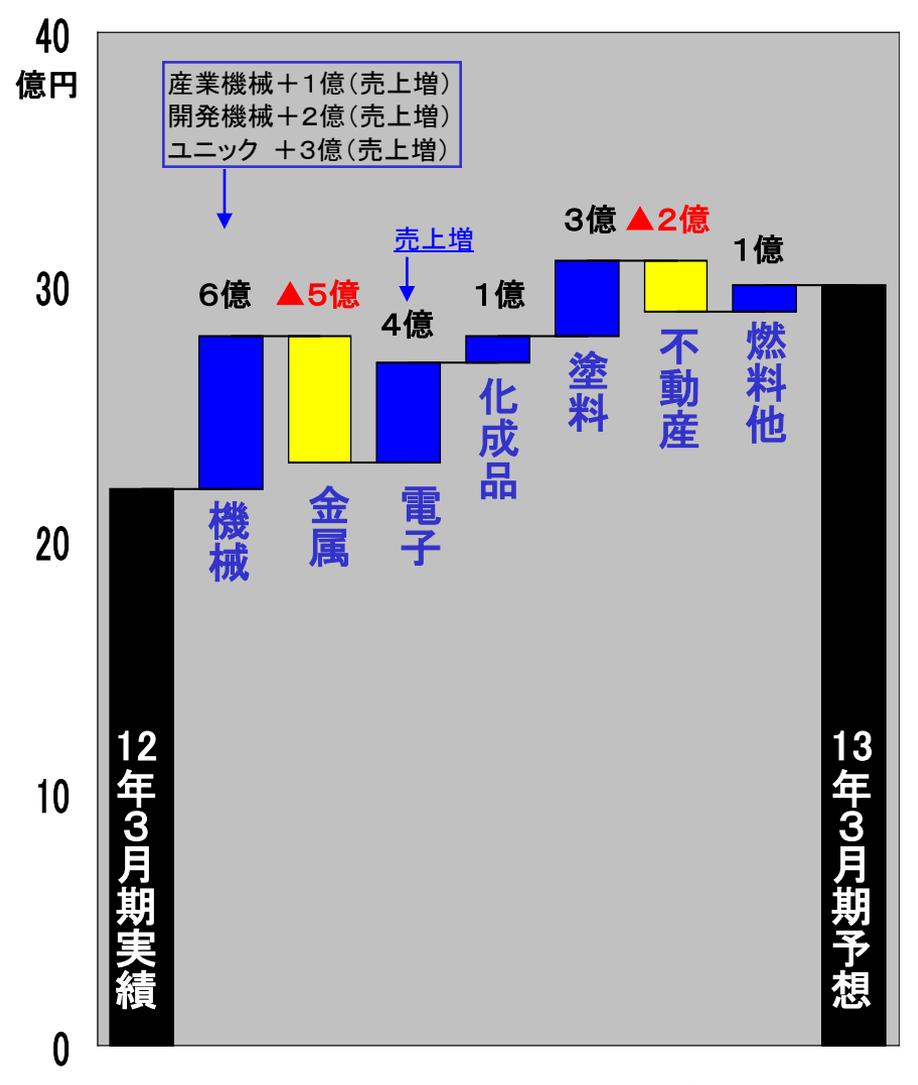
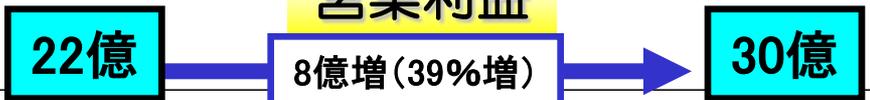
※09/12に㈱トウベ（塗料事業）を連結子会社化

# 13年3月期部門別業績予想の増減(連結)

## 売上高



## 営業利益



## 設備投資の状況(連結)

(単位:百万円)

設備投資額	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期 (予想)
機械部門	740	467	771	900
金属部門	425	311	325	650
電子化成品部門	259	343	457	300
塗料部門	219	235	350	300
不動産部門	225	305	1,482	750
燃料部門その他	679	451	203	100
設備投資 合計	2,545	2,112	3,588	3,000

日本橋室町東地区再開発事業

## 減価償却費の状況(連結)

減価償却費	3,243	3,288	3,328	2,900
-------	-------	-------	-------	-------

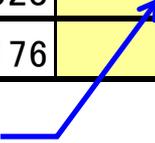
## 研究開発費の状況(連結)

研究開発費	1,861	2,224	2,621	2,000
-------	-------	-------	-------	-------

## 金属製品・為替の状況(連結)

		10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期 (想定)
銅海外相場(平均)	¢/ポンド	276.7	369.2	384.9	362.9
	\$/トン	6,101	8,139	8,485	8,000
円相場 対米ドル平均(円/\$)		92.85	85.71	79.07	77.00
《古河メタルリソース(株)生産販売》		10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期 (予想)
銅 生産量(t)		84,455	89,523	76,896	92,239
銅 販売量(t)		89,456	89,176	82,597	93,375

震災により委託製錬所が  
操業停止したことによる減



## 従業員の状況

	10年3月末	11年3月末	12年3月末	対12/3末増減
連結人員(名)	2,670	2,728	2,752	24
うち単独人員(名)	(207)	(215)	(223)	(8)

## 基本方針

- ・機械事業の技術力強化と更なる海外展開の推進
- ・新製品の事業化に向けた開発の促進

## 機械事業の重点施策

- ・新興国を中心にインフラ、鉱山開発、運搬という社会の必須分野で事業展開を加速
- ・国内はさらなるシェア拡大と復興関連製品の展開を強化

### <ロックドリル>

- ・海外 東南アジア・中国・インド・中南米等のインフラ整備・鉱山開発向けに拡販
- ・国内 復興工事向けの営業展開を強化

⇒12~15ページ

### <ユニック>

- ・海外 ロシア・東南アジア等の新興国で営業展開を強化
- ・国内 ユニッククレーン等を引き続き拡販

⇒16ページ

### <産業機械>

- ・販売体制をさらに強化し従来市場への深掘りと復興需要に対応
- ・高性能スラリーポンプや環境機器等の新製品による新市場を開拓

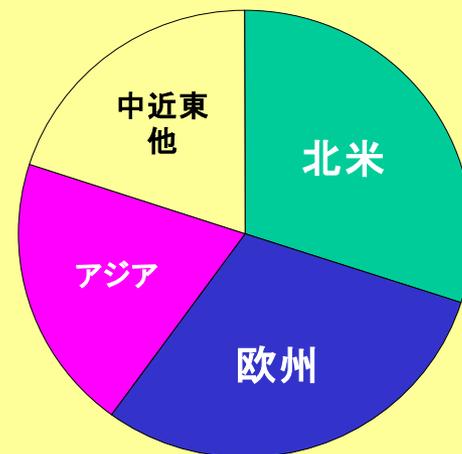
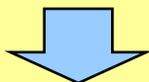
復興関連⇒17,18ページ

## ロックドリル事業－海外展開－

### 2006年度 地域別海外売上比率

**北米30%** **欧州30%** **アジア20%** **中近東他20%**

主に住宅建設、先進国インフラ向けが中心だった



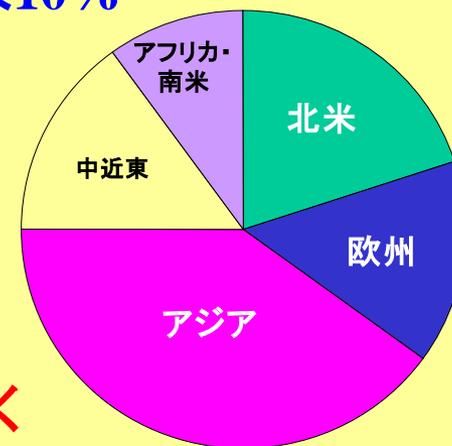
### 2011年度 地域別海外売上比率

**アジア40%** **北米20%** **欧州15%** **中近東15%** **アフリカ・南米10%**

大規模な都市インフラ等、新興国向けの取り込みが進む



**今後は東南アジア・中国・インド・中南米・アフリカ等の  
インフラ整備、鉱山開発向けに拡販を加速していく**



## ロックドリル事業—海外展開—



## ロックドリル事業－新興国への展開－

### ■インフラ整備向け

当社のターゲット

→ゼネコン(土木・建設関連)



新興国向けの戦略製品の展開を強化

#### 戦略製品

- ・新興国向け油圧ブレーカ
- ・油圧クローラドリル

### ■鉱山開発向け

当社のターゲット

→中規模鉱山、セメント会社、専門下請業者



中規模鉱山に適した戦略製品の展開を強化

#### 戦略製品

- ・中型油圧クローラドリル
- ・大型油圧ブレーカ
- ・鉱山用ドリルジャンボ



小型

インフラ整備

鉱山開発

大型



ベトナム／メコン川流域開発



ミャンマー／碎石現場→



インド／基礎工事



インドネシア／石炭鉱山



中国・新疆／鉄鋼石鉱山

## ロックドリル製品の海外稼働例

## ユニック事業ーロシアへの展開ー

### ロシアの状況

- ・インフラ整備などの国内需要により当面GDP+4%成長  
2014年ソチ冬季五輪、2018年サッカーW杯等が控える
- ・車載型クレーン市場はリーマンショック前の水準に回復

当社クレーンのロシアへの輸出は2005年より開始  
ユニックの海外販売では重点国との位置づけ

⇒販売体制を強化していく

### 主な施策

- ・モスクワに販売会社を設立
- ・サービス体制を強化
- ・主要地域に販売店(ディーラー)を新規に設定



ロシアで使用されている  
ユニッククレーン



## 機械3事業—復興関連製品—

### ■ 下水処理

→ 汚泥ポンプ、生活排水膜処理ユニット



### ■ 砕石・セメント鉱山

→ クローラドリル、ブレーカ、破碎・粉砕機



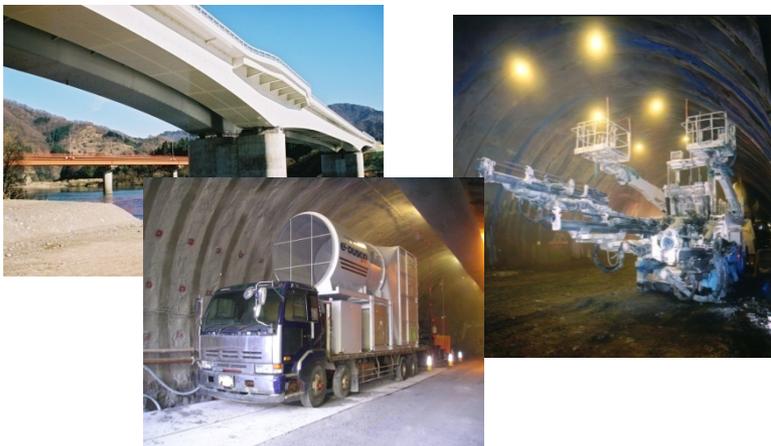
### ■ 物流、建築土木現場

→ ユニッククレーン、圧砕機



### ■ 道路(橋、トンネル)

→ 橋梁、トンネル工事用電気集じん器、トンネルドリルジャンボ



### ■ その他

→ オーシャンクレーン、ミニ・クローラクレーン



**当社が得意とする製品のさらなるシェア拡大を図る**

## 復興道路・復興支援道路の概要

※国土交通省HPより抜粋



## 復興道路向け

### ■トンネル工事



トンネル工事用電気集じん器



トンネルドリルジャンボ

### ■橋梁工事



### ■間接需要(砕石他)



油圧クローラドリル

油圧ブレーカ



破碎機類



## 素材事業の重点施策

- ・鉱山投資による収益確保
- ・新製品・新素材の開発と事業化により収益力を強化

### <金属>

鉱石の安定調達と権益確保のための鉱山投資を引き続き検討

### <電子材料>

コイル事業の拡大・強化 ⇒20ページ

### <事業化案件>

#### 窒化ガリウム(GaN)基板

長尺化によるコストダウンと量産技術確立を推進

#### シンチレータ結晶 LuAG結晶・GAGG結晶

同結晶を用いた新製品開発及び事業化を推進 ⇒21ページ

#### 熱電変換材料

自動車エンジン排熱利用向けへのビジネスモデルを構築 ⇒22ページ



GaN基板(4インチと2インチ)

## 電子材料事業ーコイル事業の拡大・強化ー

コアを自社生産できる技術を活かしニーズに沿ったコイルを提供  
特に自動車部品用では多くの納入実績を持つ

### <主な展開>

#### EV・PHV充電器用大型リアクトル

PHV充電器向けは2012年1月より納入開始  
EV向けにも展開予定

#### 電動パワステ(EPS)用フィルタコイル

当社コイルはすでにトップシェア  
→EPS普及台数増加に伴い数量増加

EPS普及台数2011年約3000万台→2015年約4700万台(矢野経済研究所レポートより)

#### 直噴エンジン制御ユニット用表面実装(SMD)コイル

自動実装が可能なSMDコイルを新開発  
→欧州車向けに展開予定

このほか、家庭用EV充電器向けやアイドリングストップ向け等、  
電子制御化が進む自動車部品向けを中心に展開

⇒電子材料事業の柱の一つとしてコイル事業を拡大・強化していく



EV・PHV充電器用リアクトル



表面実装(SMD)コイル

## 事業化案件ーシンチレータ結晶 LuAG結晶・GAGG結晶ー

放射線エネルギーを吸収し発光する結晶  
医療機器の画像診断装置や放射線測定器への応用に期待されている

### LuAG結晶の応用



### 次世代乳がん検診装置(PEM装置)

NEDOプロジェクトで試作機完成済  
→臨床試験の継続と薬事申請準備中

### GAGG結晶の応用



### 放射線測定器(ガンマスポッター)

新機能を搭載し3月に新機種販売開始

### その他放射線検出器への応用案件有り

- ・魚用放射線検出器→北茨城市の水産業復興委員会傘下の茨城漁業環境研究会に参画
- ・無人ヘリ搭載用ガンマカメラ→科学技術振興機構(JST)プロジェクトに採択

⇒当社が有するシンチレータ結晶開発技術及び機械製造技術を応用し  
世の中のニーズに合った製品を開発、事業化を推進していく

## 事業化案件－熱電変換材料－

温度差を利用して熱エネルギーを電気に変換することができる材料  
自動車エンジン排熱や各種工業炉の排熱での利用に期待されている

これまでに素子・モジュールをサンプル展開  
→自動車エンジン排熱利用向けに問い合わせ増加

### <背景>

#### 米国の燃費規制が強化

2016年までに15km/L達成

2025年までに23.2km/L達成(2011年7月政府発表)

達成できない自動車メーカーには罰金

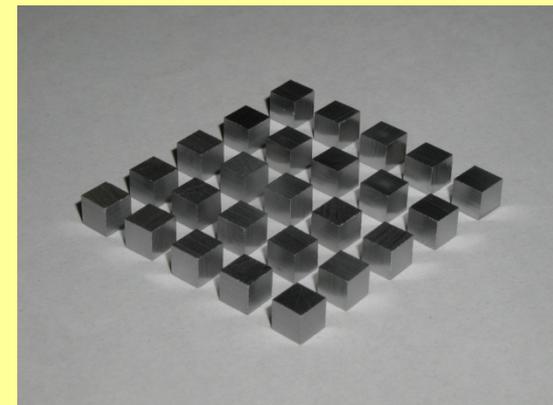
燃費改善のためのあらゆる開発が活発化

排熱利用としての熱電変換材料にも注目が集まる

※一般的な試算では熱電変換によって約5%の燃費改善が可能

→引き続き各種メーカーからの引き合いに対応していく

⇒エンジン排熱利用向けの熱電変換材料のビジネスモデルを  
検証・構築し、事業化を促進していく



熱電変換素子



熱電変換モジュール

## 過去5年間の部門別実績と業績予想

### 〔売上高〕

(単位:百万円)

	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期(予想)
機械部門	75,841	62,639	44,313	47,025	53,198	58,600
(産業機械)	(17,331)	(15,836)	(12,783)	(10,655)	(12,949)	(14,100)
(開発機械)	(37,497)	(29,427)	(20,386)	(23,880)	(24,143)	(26,800)
(ユニック)	(21,012)	(17,375)	(11,142)	(12,490)	(16,105)	(17,700)
金属部門	97,519	68,786	71,132	79,979	68,114	72,000
電子化成品部門	15,276	11,388	10,995	12,223	9,803	11,600
(電子)	(8,751)	(5,568)	(5,969)	(7,147)	(4,615)	(6,200)
(化成品)	(6,525)	(5,820)	(5,025)	(5,076)	(5,187)	(5,400)
塗料部門(※)	—	—	3,692	15,040	14,874	15,500
不動産部門	2,758	2,386	2,043	1,577	1,233	1,000
燃料	20,735	15,452	9,893	9,004	9,576	10,300
その他	1,294	1,204	854	785	766	1,000
合計	213,426	161,857	142,925	165,638	157,566	170,000

### 〔営業利益〕

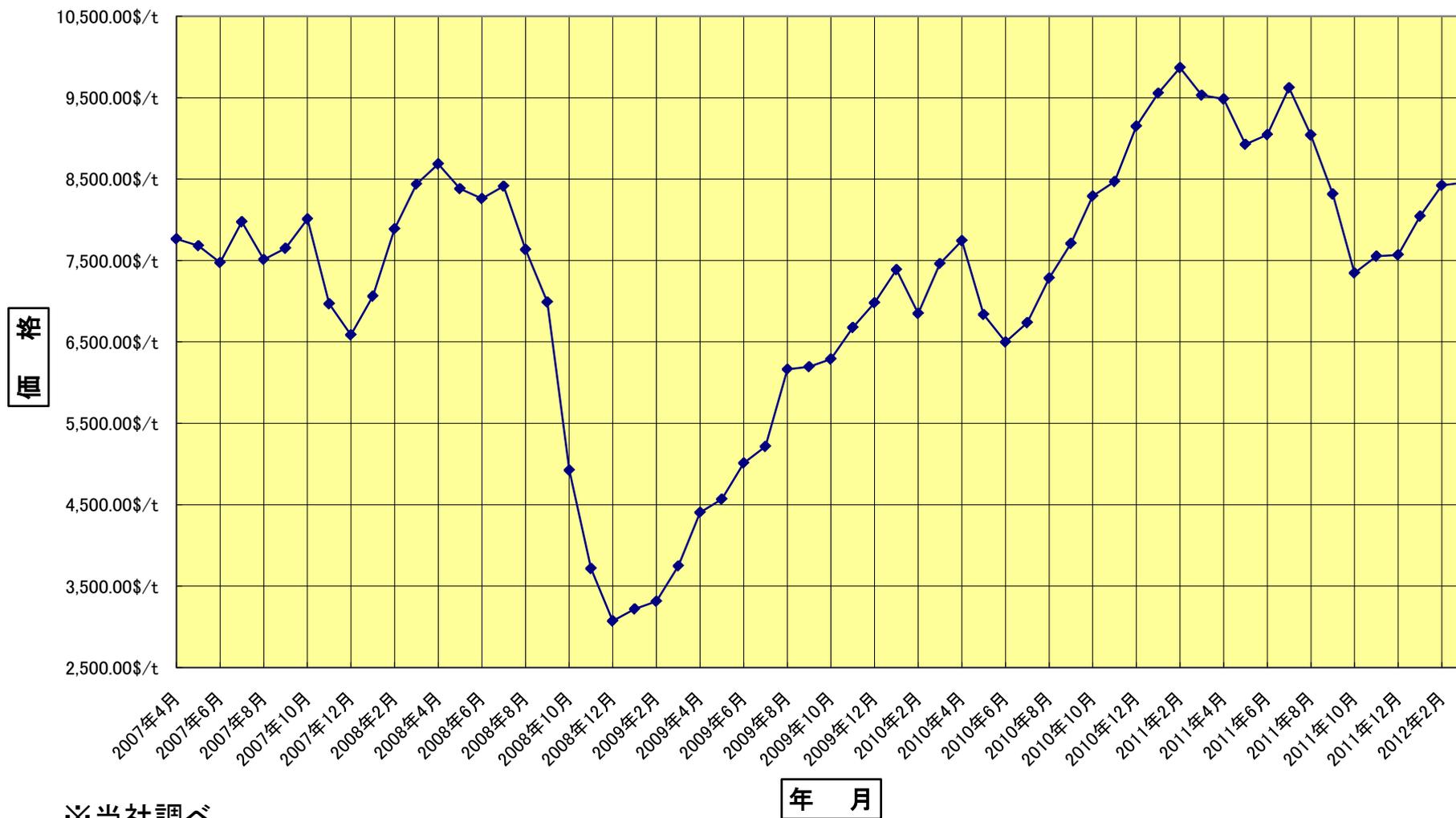
(単位:百万円)

	08年3月期	09年3月期	10年3月期	11年3月期	12年3月期	13年3月期(予想)
機械部門	6,837	1,733	△3,022	△566	1,970	2,550
(産業機械)	(837)	(767)	(433)	(△29)	(708)	(850)
(開発機械)	(3,702)	(255)	(△2,584)	(△350)	(333)	(500)
(ユニック)	(2,297)	(710)	(△870)	(△186)	(928)	(1,200)
金属部門	6,206	23	3,224	1,494	308	△150
電子化成品部門	1,455	206	761	1,549	16	500
(電子)	(984)	(4)	(657)	(1,279)	(△234)	(150)
(化成品)	(470)	(201)	(104)	(269)	(251)	(350)
塗料部門(※)	—	—	△19	△93	△329	10
不動産部門	749	706	1,128	635	356	170
燃料	△430	202	△29	△56	△13	20
その他	△228	△304	△376	△92	△93	△75
調整額	△181	△264	△69	△49	△60	△25
合計	14,407	2,303	1,597	2,821	2,154	3,000

※09/12に㈱トウベ(塗料事業)を連結子会社化

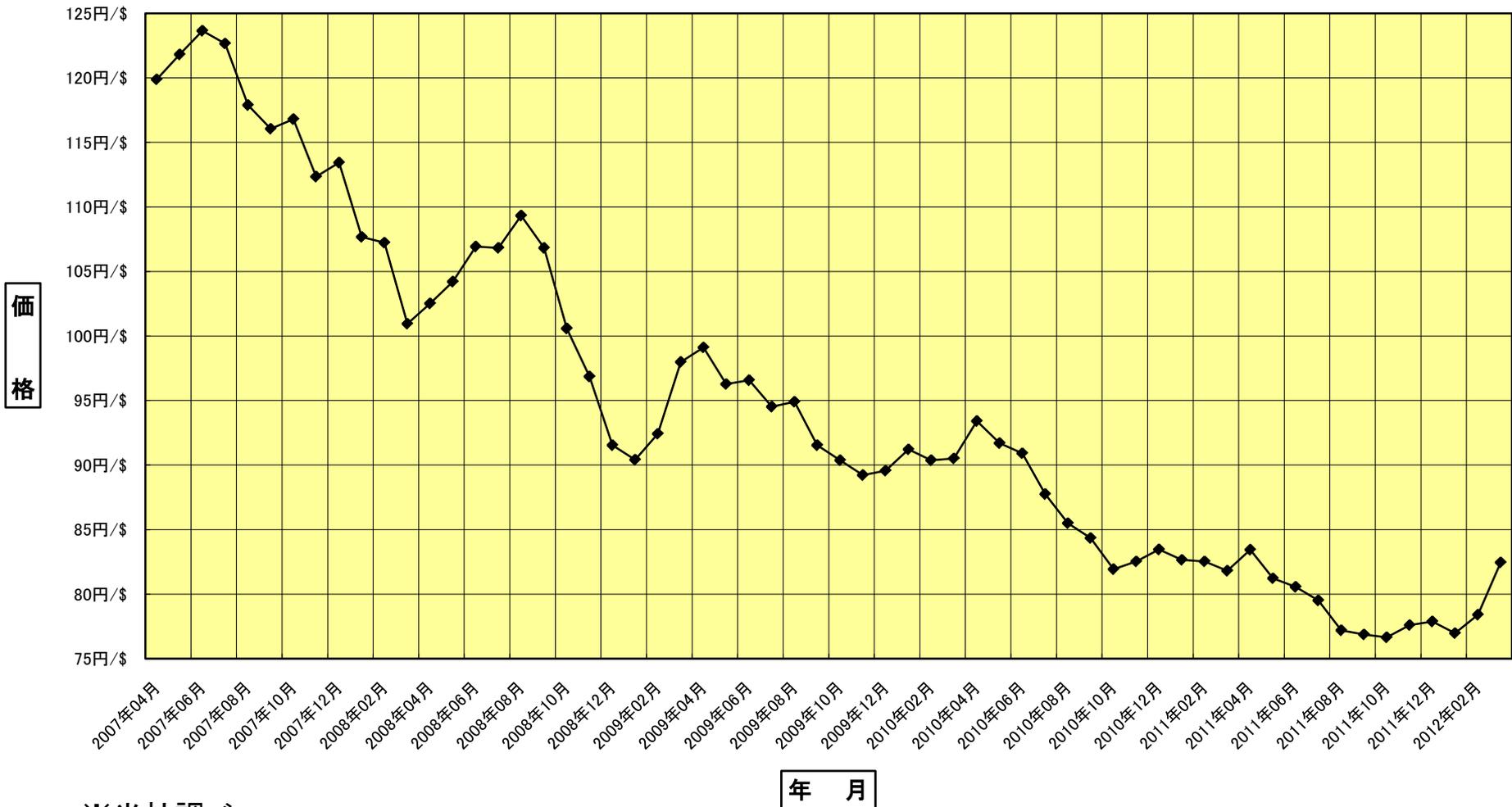
※「セグメント情報等の開示に関する会計基準」の適用(11年3月期)により10年3月期の数値を同基準に置き換えて表示しています

銅価格海外相場推移(月中平均)



※当社調べ

為替相場推移(月中平均)



※当社調べ